

本人も驚く初優勝

6位タイから九州王者に

《第56回九州アマチュア選手権競技》

～門司ゴルフ倶楽部

通算5オーバー 289

大阪学院大4年・小窪 都斗（かごしま空港36）



最終日のスタート前は首位とは9打差。トップに立つ中学生の張は初日から70・70・72と崩れるムードは漂ってはいなかった。小窪も「優勝の意識はなかった。優勝はちらついてもなかった。トップ3か2位にはなれるかな」程度で最終日の1番ティーに立ったのだった。

それが上がってみれば優勝である。上位陣のスコアが伸びなかったのだ。「ショットはまあまあだったし、最終日はパターが入るようになった。途中でスコアが出ていないし、チャンスはあるかな、と思っていた」。上を見ずに自分のゴルフを積み上げていったのである。

2、6番でボギーが先行する。この時点で10オーバー。流れは良くなかった。ところが、8番で5mを沈めると、9番でも1・5mを決めてアウトをイーブンパーの35で折り返す。勢いはインに入っても落ちない。10番でOKに寄せて3連続バーディー。16番では「スライスライ

ンを読み切れた。入ったのはデカかった」と自画自賛の2・5mのバーディーパット

を放り込むと、17番でも1mを沈めた。

鹿児島市内で生まれ、ゴルフは小学4年から父・義幸さんの影響で始めた。父は今でも師匠であり、今冬、帰郷した際に「スイングが早くなっている。もう少しゆったり振るイメージで」とアドバイスを受け、それからショットが徐々に良くなったという。「親父のおかげです」と義幸さんに頭を下げる。



今大会は樟南高時代に初参加し、大阪学院大では4年連続で計5度目の出場。ベストは2年前の4位(熊本GC城南コース)。今回の優勝は大きな意味を持つ。「大学の団体戦でレギュラーに入れなかったんですが、これを取れたのでレギュラーになれると思います」とやる気も数倍に膨らむ。今年目標でもあるプロテスト合格に向けても「調子を上げていきたい」と言葉の端々に自信がちらつく。3回目の出場となる日本アマチュア選手権に対しても「大学最後なので優勝を目指したいし、九州の選手の中では1、2番になりたい」。ウイナーは1人だけ。九州チャンピオンのタイトルがその1人となった162cmの小窪を大きくしていく。

【写真は優勝した小窪（中央）と上位の選手】

《門司ゴルフ倶楽部》



